



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 タカノ株式会社

コード番号 7885 URL <http://www.takano-net.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 鷹野 準

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 大原 明夫

TEL 0265-85-3150

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	11,433	13.9	499	—	539	—	523	—
22年3月期第3四半期	10,033	△35.2	△708	—	△592	—	△749	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	34.45	—
22年3月期第3四半期	△49.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	33,360	25,748	77.2	1,694.41
22年3月期	30,600	25,359	82.9	1,668.82

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 25,748百万円 22年3月期 25,359百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,700	19.3	345	—	400	—	370	—	24.35

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 ― 社（社名 ）、除外 ― 社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	15,721,000株	22年3月期	15,721,000株
---------------------	----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	23年3月期3Q	524,660株	22年3月期	524,620株
-----------	----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	15,196,350株	22年3月期3Q	15,196,380株
------------------	----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア圏の新興国の経済成長などを背景に回復の兆しが見られたものの、円高基調の継続や高い失業率を背景に、景気は足踏み状態での推移となりました。

このような厳しい環境のもとで、当社グループは「危機を克服し、新たな成長を拓く」をスローガンとし、中期経営計画に挙げる「既存事業分野での確実な利益確保を行える体制づくり」、「新規事業領域での事業育成強化」、「グローバル化への対応」を進めるべく、引き続き、内外製区分の見直しや製品設計等の標準化を通じたコストダウン、新エネルギー関連分野向けの積極的な営業活動と新規事業開発部門の組織体制の強化、中国向け需要を取込むための営業体制の拡充などの施策を行ってまいりました。

この結果、検査計測機器セグメントにおける検査計測装置の収益の計上基準変更の影響はあったものの、液晶パネル製造設備投資が堅調に推移したこと、産業機器セグメントが関係する電磁アクチュエータ等の需要が大きく持ち直したこと等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,433百万円で、前年同四半期比1,399百万円（13.9%）の増収となりました。

利益面につきましては、業務プロセスの見直しや経費の見直しによる固定費の削減等の合理化を進めたこととともに、需要の回復等にもなう販売の増加の影響により、営業利益499百万円（前年同四半期は営業損失708百万円）、経常利益は539百万円（前年同四半期は経常損失592百万円）、四半期純利益は523百万円（前年同四半期は四半期純損失749百万円）となりました。

なお、従来、検査計測機器セグメントにおける検査計測装置の収益の計上基準は、国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、検収基準に変更しております。この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、当第3四半期連結累計期間において売上高が3,583百万円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益がそれぞれ1,037百万円減少しております。この収益計上基準変更による影響額は、当第3四半期連結累計期間において、液晶向け検査装置の客先搬入が集中し、客先搬入済み未検収の物件が多くなったこと及び当該客先搬入装置は通例の製品と比較して収益性が高いものであったこと等によるものであります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

当社グループは、オフィス用、福祉・医療施設用の椅子等を製造販売する「住生活関連機器」事業、液晶等の検査計測装置等を製造販売する「検査計測機器」事業、電磁アクチュエータ等を製造販売する「産業機器」事業を報告セグメントとしております。また、その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用し、セグメント区分の変更を行っているため、セグメント業績の前年同四半期との比較分析は行っておりません。

①住生活関連機器

当セグメントにおきましては、オフィス家具需要は前連結会計年度における大幅な下落から当四半期は回復基調に推移しましたが、かねてからの円高により輸入品の市場への流通が増加しており、価格競争による販売単価の抑制を受ける等、事業を取り巻く環境は厳しい状況にありました。

このような環境下、当セグメントにおいては、資材の調達コストの低減に努め、内製化の促進を進めるなど売上総利益率の向上に努めてまいりました。

この結果、当セグメントの売上高は4,307百万円、セグメント損失は147百万円となりました。

②検査計測機器

当セグメントにおきましては、液晶テレビ需要の拡大等に合わせ液晶パネル製造設備投資は堅調に推移し、当社液晶検査装置の納入も増加いたしました。このような環境下、当セグメントにおいては引き続き業務プロセスの改革運動等、合理化に向けた積極的な活動を行うとともに、太陽電池製造プロセス向け等、液晶以外の分野における検査装置の積極的な営業、開発活動を行ってまいりました。

この結果、第1四半期連結会計期間より収益の計上基準を変更した影響により、当セグメントの売上高は4,076百万円となりましたが、利益面に関しましては積極的な業務プロセスの合理化等により、セグメント利益は324百万円となりました。

③産業機器

当セグメントにおきましては、金融機器・織機・半導体関連機器向けの電磁アクチュエータ需要は改善基調に推移し、それに伴い販売も堅調な動きとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,195百万円、セグメント利益は304百万円となりました。

④その他

その他の区分の売上高は1,854百万円、セグメント利益は28百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況に関する分析

当第3四半期連結累計期間末における総資産は33,360百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,759百万円増加いたしました。純資産合計は25,748百万円となり、前連結会計年度末と比較して388百万円増加いたしました。この結果、自己資本比率は77.2%と前連結会計年度末と比較し5.7ポイント減少いたしました。

資産の部については、前連結会計年度末に対し、主に受取手形及び売掛金が2,013百万円減少する一方、現金及び預金が2,267百万円、仕掛品が1,512百万円増加したこと等により、流動資産が2,155百万円増加し、22,012百万円となりました。固定資産合計は、主に減価償却による減少により有形固定資産が101百万円減少しましたが、投資有価証券等への新規の投資もあり、604百万円増加し、11,348百万円となりました。

負債の部については、主に検査計測機器セグメントにおける収益の計上基準の変更に伴う流動負債の前受金の増加により、負債合計は2,370百万円増加し7,611百万円となりました。

純資産の部については、主に当第3四半期連結累計期間における四半期純利益の計上等により、388百万円増加し25,748百万円となりました。

②キャッシュフローの状況に関する分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は9,366百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期比788百万円、32.3%増加の3,230百万円となりました。これは主に売上債権の減少額が前年同四半期の2,891百万円から当四半期は2,018百万円と前年同四半期比較で873百万円の支出増となったこと及び、たな卸資産の増減額が前年同四半期の432百万円の減少から当四半期は1,886百万円の増加と前年同四半期比較で2,319百万円の支出増となったものの、税金等調整前四半期純損益が前年同四半期比較で1,076百万円の利益増となったこと、仕入債務の増減額が前年同四半期の672百万円の減少から当四半期は140百万円の増加と813百万円の収入増となったこと及び前受金の増減額が前年同四半期の35百万円の減少（同額について、前年同四半期は「その他」に区分されております。）から当四半期は2,113百万円の増加と2,149百万円の収入増となったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は前年同四半期比618百万円減少の806百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が前年同期比較で100百万円の支出増となったものの、定期預金の預入と払戻にかかる収支が前年同四半期の1,059百万円の支出から当四半期は442百万円の支出と、前年同期比較で617百万円の支出減となったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、前年同四半期比108百万円減少の74百万円となりました。これは主に長期借入金による収入と返済による支出の収支が前年同四半期の102百万円の支出から当四半期は10百万円の収入となったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績は、利益面において、平成22年11月4日に公表を行いました平成23年3月期通期連結業績予想を上回る水準で推移しておりますが、当連結会計年度末にかけての住生活関連機器オフィス家具の需要動向に不透明さがあること、当第4四半期連結会計期間に売上計上を予定している検査計測装置の物件の検収予定に不透明さがあり、当該物件の売上高が翌期にずれ込む可能性があること等により、当第4四半期連結会計期間の業績に不確実性があります。

そのため、現時点において、平成22年11月4日に公表しました予想に据え置いております。今後、見通しの精査を行い、業績予想の変更が必要となった場合は、速やかにお知らせする予定であります。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の条件に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後発生する様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計方針の変更)

①「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額はありません。

②収益の計上基準の変更

当社グループは、これまで当社グループが製造する検査計測装置の収益の計上基準を国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、検収基準に変更しております。

この変更は、検査計測装置の大型化、高度化等が進み、搬入から検収までの期間が長期化する傾向にあることから、収益の計上基準をより客観性、確実性のある基準とするために行うものであります。

この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、売上高が3,583百万円減少し、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益がそれぞれ1,037百万円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,938,282	7,670,749
受取手形及び売掛金	6,922,554	8,936,067
有価証券	52,239	150,876
商品及び製品	620,111	316,529
仕掛品	3,414,554	1,902,098
原材料及び貯蔵品	581,888	511,945
その他	483,906	374,087
貸倒引当金	△1,314	△5,670
流動資産合計	22,012,223	19,856,683
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,355,713	1,411,719
機械装置及び運搬具（純額）	611,690	677,686
土地	4,229,739	4,229,739
その他（純額）	262,541	242,324
有形固定資産合計	6,459,685	6,561,470
無形固定資産	113,520	117,643
投資その他の資産		
投資有価証券	3,506,770	3,311,830
その他	1,490,292	981,528
貸倒引当金	△222,257	△228,689
投資その他の資産合計	4,774,805	4,064,669
固定資産合計	11,348,011	10,743,782
資産合計	33,360,234	30,600,466

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,395,142	3,256,958
未払法人税等	34,785	27,526
前受金	2,135,708	—
賞与引当金	138,266	165,942
受注損失引当金	141,234	147,383
その他	1,008,297	853,936
流動負債合計	6,853,433	4,451,747
固定負債		
長期借入金	170,000	180,000
退職給付引当金	405,138	437,620
役員退職慰労引当金	137,630	140,320
その他	45,229	30,805
固定負債合計	757,997	788,746
負債合計	7,611,431	5,240,493
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,900	2,015,900
資本剰余金	2,355,417	2,355,417
利益剰余金	21,746,877	21,299,391
自己株式	△272,388	△272,366
株主資本合計	25,845,806	25,398,342
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△66,829	△14,937
為替換算調整勘定	△30,174	△23,433
評価・換算差額等合計	△97,003	△38,370
純資産合計	25,748,802	25,359,972
負債純資産合計	33,360,234	30,600,466

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	10,033,995	11,433,253
売上原価	9,267,562	9,177,888
売上総利益	766,432	2,255,364
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	405,523	466,634
賞与引当金繰入額	32,663	28,072
退職給付費用	26,755	27,263
役員退職慰労引当金繰入額	8,820	8,190
その他	1,000,959	1,225,803
販売費及び一般管理費合計	1,474,722	1,755,963
営業利益又は営業損失(△)	△708,289	499,400
営業外収益		
受取利息	22,423	23,158
受取配当金	13,993	15,767
助成金収入	84,074	23,098
その他	15,599	15,307
営業外収益合計	136,090	77,332
営業外費用		
支払利息	4,900	3,390
固定資産除売却損	4,243	1,394
為替差損	3,119	21,297
コミットメントフィー	3,046	7,736
その他	4,776	3,696
営業外費用合計	20,087	37,516
経常利益又は経常損失(△)	△592,285	539,216
特別利益		
貸倒引当金戻入額	82,328	10,772
投資有価証券売却益	—	8,076
その他	18	602
特別利益合計	82,347	19,451
特別損失		
固定資産除売却損	—	22,930
関係会社株式評価損	—	2,999
投資有価証券評価損	—	3,286
事業整理損	36,634	—
その他	31	39
特別損失合計	36,666	29,256
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△546,604	529,411
法人税、住民税及び事業税	27,668	40,530
法人税等調整額	174,824	△34,586
法人税等合計	202,493	5,943
少数株主損益調整前四半期純利益	—	523,467
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△749,097	523,467

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△546,604	529,411
減価償却費	370,985	337,301
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△82,328	△10,772
賞与引当金の増減額(△は減少)	97,234	△27,649
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△52,711	△32,377
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	8,820	△2,690
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△33,000	—
受注損失引当金の増減額(△は減少)	56,000	△6,149
受取利息及び受取配当金	△36,416	△38,925
支払利息	4,900	3,390
投資有価証券評価損益(△は益)	—	3,286
売上債権の増減額(△は増加)	2,891,499	2,018,287
たな卸資産の増減額(△は増加)	432,328	△1,886,924
仕入債務の増減額(△は減少)	△672,381	140,906
前受金の増減額(△は減少)	—	2,113,404
その他	△12,572	91,684
小計	2,425,754	3,232,183
利息及び配当金の受取額	34,042	34,072
利息の支払額	△5,534	△3,211
法人税等の支払額	△25,949	△39,887
法人税等の還付額	13,320	6,919
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,441,633	3,230,077
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,332,000	△694,000
定期預金の払戻による収入	272,176	252,000
有価証券の取得による支出	—	△102,338
有価証券の売却及び償還による収入	80,000	99,949
有形固定資産の取得による支出	△69,822	△170,174
有形固定資産の売却による収入	112	1,215
投資有価証券の取得による支出	△341,007	△559,885
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	379,661
その他	△34,456	△12,737
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,424,996	△806,310
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△102,000	△90,000
自己株式の取得による支出	—	△21
リース債務の返済による支出	△4,883	△8,028
配当金の支払額	△75,981	△75,981
財務活動によるキャッシュ・フロー	△182,865	△74,032
現金及び現金同等物に係る換算差額	△999	△24,200
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	832,771	2,325,533
現金及び現金同等物の期首残高	5,918,357	7,040,749
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,751,129	9,366,282

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	OEM事業 (千円)	エレクトロ ニクス関連 事業 (千円)	その他の事 業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,717,819	4,742,960	573,215	10,033,995	—	10,033,995
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,784	230	565,456	569,471	(569,471)	—
計	4,721,604	4,743,190	1,138,671	10,603,466	(569,471)	10,033,995
営業利益又は営業損失 (△)	△297,355	△440,434	19,024	△718,765	10,476	△708,289

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分は、内部管理上の区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
OEM事業	鋼製事務用椅子（事務用回転椅子、折畳椅子）、その他椅子等（会議用椅子・テーブル等）、線ばね、板ばね、エクステリア（カーポート、テラス、オーニング）、健康福祉関連機器、他
エレクトロニクス関連事業	電磁アクチュエータ、フラット・パネル・ディスプレイ検査装置、原子間力顕微鏡、他
その他の事業	工作機械、省力化機械、他

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関である経営会議が経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業部門を置き、各事業部門は国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。そのため、当社グループは当該事業部門を基礎とした製品・サービス別の事業セグメントにより構成されております。

当社グループはこれらの事業セグメントのうち、報告すべきセグメントである「住生活関連機器」、「検査計測機器」、「産業機器」の3つを報告セグメントとしております。

「住生活関連機器」は、オフィス用、福祉・医療施設用の椅子等を製造販売しております。「検査計測機器」は、液晶等の検査計測装置等を製造販売しております。「産業機器」は電磁アクチュエータ等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	住生活関連 機器	検査計測 機器	産業機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,307,318	4,076,119	1,195,203	9,578,642	1,854,611	11,433,253
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,251	11,908	10	27,169	539,052	566,222
計	4,322,570	4,088,027	1,195,214	9,605,812	2,393,664	11,999,476
セグメント利益又はセグメン ト損失（△）	△147,318	324,938	304,552	482,171	28,338	510,510

（注）その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	482,171
「その他」の区分の利益	28,338
セグメント間取引消去	△11,109
四半期連結損益計算書の営業利益	499,400

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

5. 会計方針の変更

当第3四半期連結累計期間

「2. その他の情報（3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要（会計方針の変更）②」に記載のとおり、従来、検査計測機器セグメントにおける検査計測装置の収益の計上基準は、国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、第1四半期連結会計期間より、検収基準に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「検査計測機器」セグメントの売上高が3,583,544千円、セグメント利益が1,037,058千円それぞれ減少しております。

6. 追加情報

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	4,470,952	—
検査計測機器 (千円)	6,868,408	—
産業機器 (千円)	1,302,432	—
報告セグメント計 (千円)	12,641,793	—
その他 (千円)	1,206,648	—
合計 (千円)	13,848,442	—

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間取引は相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結累計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	4,403,838	—	728,687	—
検査計測機器 (千円)	5,055,306	—	6,975,744	—
産業機器 (千円)	1,167,148	—	110,993	—
報告セグメント計 (千円)	10,626,294	—	7,815,424	—
その他 (千円)	1,842,223	—	112,053	—
合計 (千円)	12,468,517	—	7,927,477	—

(注) セグメント間の取引は相殺消去しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	前年同四半期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	4,307,318	—
検査計測機器 (千円)	4,076,119	—
産業機器 (千円)	1,195,203	—
報告セグメント計 (千円)	9,578,642	—
その他 (千円)	1,854,611	—
合計 (千円)	11,433,253	—

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
コクヨファニチャー株式会社	3,058,958	30.5	3,487,073	30.5
L G ジャパン株式会社	—	—	1,603,000	14.0
パナソニック液晶 ディスプレイ株式会社	1,401,270	14.0	—	—

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 前第3四半期連結累計期間において、主な販売先であった株式会社IPSアルファテクノロジーは、平成22年10月1日付でパナソニック液晶ディスプレイ株式会社に社名変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間のパナソニック液晶ディスプレイ株式会社については、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。